

編集後記

藍野大学紀要 第30巻が完成しましたのでお届けします。今号も症例報告から原著、総説などバラエティに富んだ論文を投稿していただきました。加えて、今号が第30巻の節目であるということで、何人かの先生に特別寄稿をお願いし、掲載することができました。この場を借りて投稿して下さった先生方に篤く御礼申し上げます。

今、この後記を茨木市にある大学の一室で書いているのですが、昨日よりの大雨で朝からアラートが鳴り続けています。幸い大学のある三島丘は高台になっていますので、水害の恐れはなさそうですが、近くを流れる安威川や茨木川には氾濫の危険が迫っているようです。先月には隣の高槻市を震源とした大地震が発生し、大学も1週間の休講を余儀なくされるなど、大きな被害を受けたばかりというのに、またか……という気持ちです。

先月の地震の後、近くのコンビニやスーパーでは水やインスタント食品がほとんど売り切れていました。小さなパニック状態だったのかもしれませんが。その状態を見て思ったのは、普段から水や食料を備蓄しておくというのは、直接的に備蓄した物資が役立つというばかりでなく、災害時の平常心を保ち、心の余裕を持つためにも大事なことであるということでした。

被災した時に必要なものとして、水や食料、お金に加えて、傷ついた心を癒すのにユーモアが必要だと言われます。欧米の映画などで主人公が危機に陥った時に、くだらないジョークを飛ばすという場面がありますが、あれですね。というわけで、私も棚にただ一つ残っていた激辛カップラーメン（普段は絶対に食べないもの）を、「この陳列台の端から端まで全部ご購入！ 憧れの大人買い！」とほくそ笑みながら買った次第です。その時は我ながらなかなかよいジョークだと思っていたのですが、今思い返すと実にくだらないですね。やはり普段からユーモアの心も備蓄しておかないといけないようです。

それはさておき備蓄が役に立つ様な事態が二度とおこらないように願いつつ、最後になりましたが、著者のみなさまをはじめ、査読を快くお引き受けいただいた先生方、そして膨大な事務処理を黙々とこなされた事務局の方々に深く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(藍野大学紀要編集実施委員長：田中俊典)

藍野大学紀要 第30巻

平成30年3月31日

編集兼発行者 学校法人 藍野大学
〒567-0011
大阪府茨木市高田町1-22
電話 (072) 621-3764 (代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒601-8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話 (075) 681-2741